

2025年3月28日

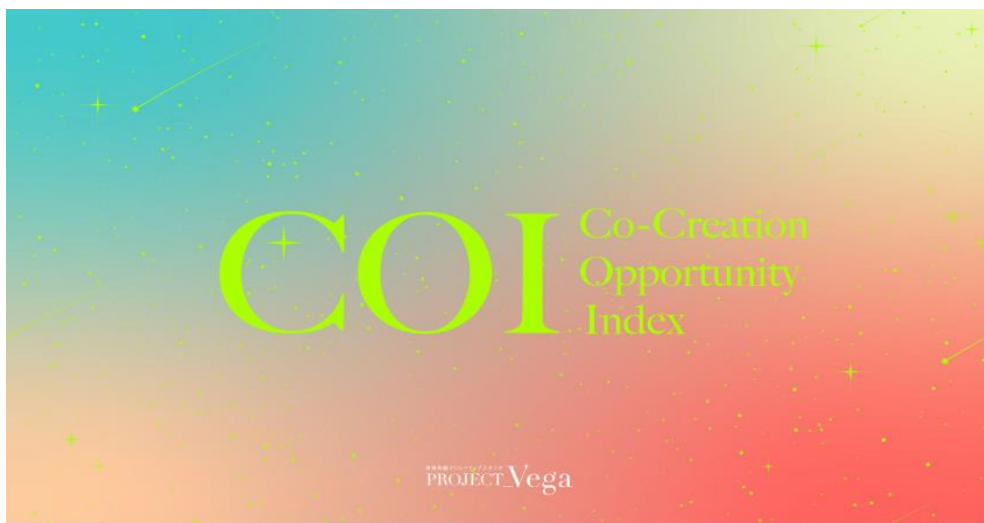
博報堂 PROJECT_Vega、社会における共創機会を起点に ビジネスをスケールさせる 100 の可能性をまとめたレポート 「Co-Creation Opportunity Index」公開

株式会社博報堂（本社：東京都港区、代表取締役社長：水島正幸、以下博報堂）の官民共創クリエイティブスタジオ PROJECT_Vega は、生活者が、企業や公共団体など複数のステークホルダーに求めている共創のテーマを「共創機会」※として紐解き、ビジネスをスケールさせる可能性がある 100 個の項目にまとめました。それぞれの項目に紐づく世界の事例やビジネスチャンスを独自の指標から分析・可視化したレポート「Co-Creation Opportunity Index (COI)」を公開しましたのでお知らせいたします。

※「共創機会」とは、社会で解決が求められている 이슈や人々の暮らしをより良くするための取り組みに、みんなが共感・共鳴し、アイデアが創発されるような“ありたい未来の社会”のためのテーマのこと。

▼レポートはこちら（無料でダウンロードいただけます）

URL：https://www.hakuhodo.co.jp/vega/assets/pdf/COI_report_JP.pdf



2024年4月に始動した PROJECT_Vega は、官民で取り組むべき「共創機会」を見出し、社会をよりよくするための活動を行ってまいりました。このたび、生活者、国や行政、民間企業が一体となってより大きな課題に向き合い、成長するために、取り組みの示唆となるレポートとして「Co-Creation Opportunity Index」を公開いたします。本レポートの制作にあたって、生活者は実際に社会や日々の暮らしに対してどのような課題意識を持ち、どのような共創を求めているのかを把握するために定量・定性調査を実施、調査結果から見えてきた生活者が望む共創機会についてまとめています。社会で取り組むべきテーマに関する生活者インサイトの把握や、共創事業などにおけるヒントとしてご活用ください。今後は、本レポートのデータを活用したコンサルティングやアイデア開発などの支援も計画しています。

■ 「Co-Creation Opportunity Index (COI)」 レポートの構成

- Chapter1 共創機会とは何か？
- Chapter2 共創が必要とされる時代の生活者意識
- Chapter3 COI の主な4つの指標と Overview
- Chapter4 共創機会シート／ご連絡先について

・ 共創機会とは何か？

CHAPTER 1 共創機会とは何か？

PROJECT Vega

「共創機会」を起点に 共創を始める

プレイヤーや課題から
共創機会を発想する
通常のプロセス

共創機会から
業種付属を探す
「COI」で目指すプロセス

共創機会

「共創機会」は、社会課題や人々の暮らしをより良くするための取り組みに、みんなが共感・共鳴し、アイデアが創発されるような“ありたい未来の社会”のテーマ設定。

Vegaは、誰よりもまず「共創機会」を考え抜き、生み出すチームとして、数多くの「共創機会」を体系的に見出し、みんなが集う起点をつくることを目指しました。

今回のレポートは、「共創機会」を生活者との関係性(評価)とともに一覧化することで、みんなの共創の起点となることを目指します。その関係性や評価を表すインデックスを「COI (Co-Creation Opportunity Index)」と名付け、このレポートで紹介していきます。

・ 共創機会シートの一例

共創機会
008
「子育て」と「仕事」のバランスを、個々人が自由に選択できること
CATEGORY:
出産/育児

PICK UP DATA

「ワクワクですぐやるべきで共創に向いている」型の共創機会

自分ごと
に
感じる度
43
位

ワクワク
する度
7
位

すぐ
やるべき度
27
位

共創
向いてる度
28
位

テーマ概要

どんどんと仕事を持つ人の「子育て」環境は改善しているが、それでもバランスを取るの難しい。柔軟な働き方ができる仕組み・制度や、多様な子育て支援策を整えば、親は子育てだけでなく、仕事を通じた自己実現などを、もっと広げることができるはず。

先進的な事例

シンガポール国家「シンガポールの家族に優しい職場づくり」

- 2025年4月から、父母で共有可能な共同育児休暇が付与
- 父親の育児休暇取得が義務化され、家庭での育児分担が推進
- フレキシブルワークアレンジメントガイドラインが導入され、柔軟な働き方が選択しやすくなる

More Data

応援人口

5,578
万人

Small Voices

フルタイムでバリバリ働くか、それとも低賃金のパートかの二重苦のような社会ではなく、その中間的な選択もあって、かつまた自由に選択しなおせる社会が高い。(女性40代)

子供と関わる時はしっかり関わる。仕事をする時は真面目にできているという意識のほうがどちらもうまくいっていて。(男性30代)

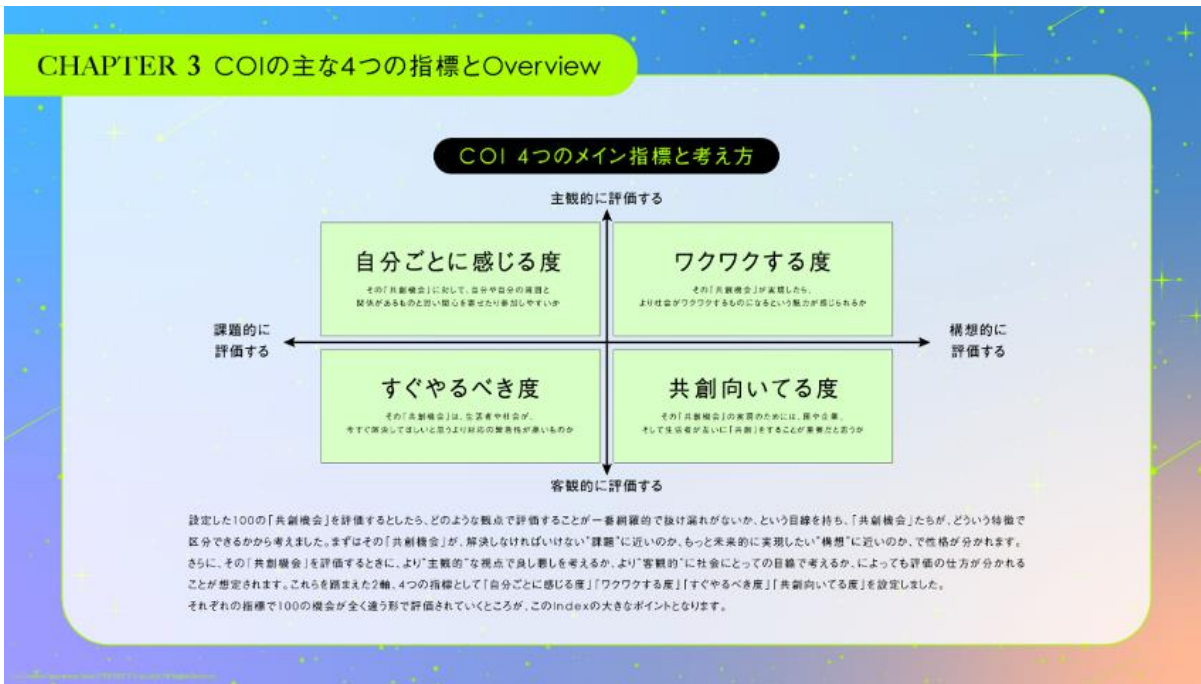
Vega's EYE

「ワークライフバランス」という社会記号が流行っていた頃は、実践できている人はまだ少なかったと思いますが、コロナ禍のステイホームが、結果として本来の意味での「ワークライフバランス」を行動に移せるような変化だったと実感しています。その際に、子どもがいる人にとっては「子育てと仕事」の両立だし、そうではない人にとっても「自分の時間と仕事」の両立が守られていくべきではないでしょうか。もちろん、「仕事ひとすじ」が好き人はそうであってもいいと思います。

チャンスを感じた産業：家事代行サービス/人材

永瀬 雄也

・ PROJECT_Vega 独自の分析指標



◆定量調査概要

調査方法：WEB 定量調査

調査地域：日本

調査対象：全国・18歳～79歳・男女（3000ss）

調査時期：2024年9月

調査実施機関：株式会社 M&A

◆PROJECT_Vega について

喫緊の取り組みが求められるにもかかわらず解決が難しいと思われていた社会課題に対して、国/行政と民間企業の双方向から手を取り合って取り組む価値のある「共創機会」を見出し、双方に対するマッチング、ソリューション、オペレーション提案に取り組むための推進組織。

<https://www.hakuhodo.co.jp/vega/>

【本件に関するお問い合わせ】

株式会社博報堂 広報室 下田・大野 koho.mail@hakuhodo.co.jp